



■ 主な内容 ■

- | | |
|--------|-------------------|
| P2～7 | 平成24年度予算 |
| P8～9 | 総合計画後期基本計画を策定しました |
| P10～12 | まちのできごと |
| P14 | スズメ蜂対策 ～春の対策～ |
| P16 | 後期高齢者保険料の変更について |

人面付土器“いずみ”が2つ！？
どちらが本物か分かりますか？

東日本大震災からの復旧・復興を最優先として

豊かな自然と調和した安心・快適な活力のまちへ

平成24年度当初予算

平成24年3月23日に市議会の議決を得て成立しました。

平成24年度の一般会計当初予算は4月の市長選挙を踏まえ、政策的経費を極力抑えた骨格予算としました。

固定資産税の評価替え等による市税収入が減少する厳しい財政状況ではありますが、東日本大震災からの復旧・復興を最優先課題として取り組むとともに、市総合計画の推進と市内各地域の一層の発展につながるよう配慮して予算編成に努めました。

これにより一般会計は、前年度より0.9%減の203億5千万円、特別会計は、2.8%増の121億2,200万円、上水道事業会計は、8.4%減の9億2,154万円となり、全会計予算の総額は、前年度より0.2%増の333億9,354万円となりました。

一般会計 **203億5,000万円**
(対前年度比0.9%減)

特別会計 121億2,200万円
(対前年度比2.8%増)

上水道事業会計 9億2,154万円
(対前年度比8.4%減)

全会計合計 **333億9,354万円**
(対前年度比0.2%増)

一般会計

市民1人
あたりの予算

442,959円
(443,303円)

1世帯
あたりの予算

1,183,759円
(1,199,907円)

平成24年3月1日現在住基人口

●45,941人

平成24年3月1日現在世帯数

●17,191世帯

() 内は前年度の金額

市民1人あたりの予算

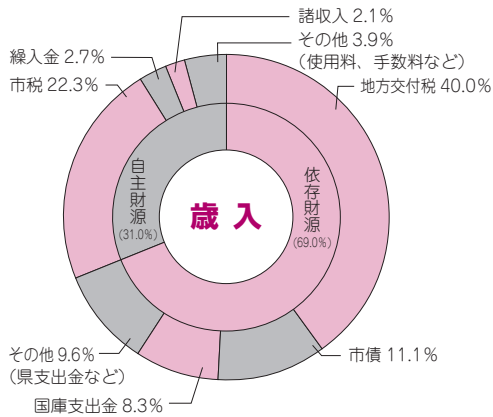


平成24年度当初予算のあらまし

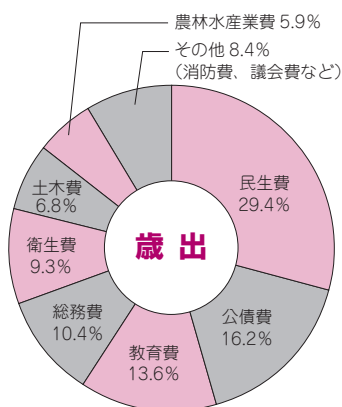
一般会計

単位：千円

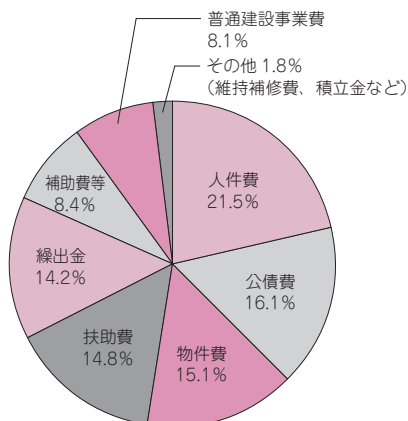
〔歳入〕



〔歳出〕 目的別構成比



〔歳出〕 性質別構成比



	平成24年度	平成23年度	増減額
総 額	20,350,000	20,540,000	▲190,000
自主財源			
1. 市 税	4,533,943	4,615,188	▲81,245
2. 繰入金	548,222	687,974	▲139,752
3. 諸収入	425,301	427,391	▲2,090
4. その他	803,747	814,405	▲10,658
計	6,311,213	6,544,958	▲233,745
依存財源			
1. 地方交付税	8,140,000	8,000,000	140,000
2. 市 債	2,257,000	2,128,900	128,100
3. 国庫支出金	1,694,095	1,606,283	87,812
4. その他	1,947,692	2,259,859	▲312,167
計	14,038,787	13,995,042	43,745

	平成24年度	平成23年度	増減額
総 額	20,350,000	20,540,000	▲190,000
1. 民生費	5,981,548	6,189,597	▲208,049
2. 公債費	3,286,900	3,380,279	▲93,379
3. 教育費	2,763,369	2,137,003	626,366
4. 総務費	2,108,612	2,338,609	▲229,997
5. 衛生費	1,890,058	1,960,697	▲70,639
6. 土木費	1,394,839	1,530,885	▲136,046
7. 農林水産業費	1,210,397	1,217,217	▲6,820
8. その他	1,714,277	1,785,713	▲71,436

- 民生費は、子ども手当制度の改正や国民健康保険特別会計（事業勘定）繰出金の減により、減額となっています。
- 教育費は、山方中学校改築工事の計上等により、増額となっています。
- 総務費は、移動通信用鉄塔（携帯電話）施設整備工事の皆減や職員数削減により、減額となっています。
- 土木費は、骨格予算のため新規道路改良工事の予算計上を見送ったことにより、減額となっています。

	平成24年度	平成23年度	増減額
総 額	20,350,000	20,540,000	▲190,000
1. 人件費	4,368,478	4,539,131	▲170,653
2. 公債費	3,286,900	3,380,279	▲93,379
3. 物件費	3,072,358	3,037,573	34,785
4. 扶助費	3,013,926	3,047,565	▲33,639
5. 繰出金	2,890,330	2,903,670	▲13,340
6. 補助費等	1,702,940	1,762,428	▲59,488
7. 普通建設事業費	1,654,769	1,524,175	130,594
8. その他	360,299	345,179	15,120

- 人件費は、職員数削減等により減額となっています。
- 公債費は、過去に消防や教育関係建設事業で借入れた市債の元利償還額の減により、減額となっています。
- 物件費は、三美地区で実施する県営土地改良事業遺跡調査委託料の計上等により、増額となっています。
- 扶助費は、子ども手当制度の改正等により、減額となっています。
- 補助費等は、大宮地方環境整備組合負担金の減等により、減額となっています。
- 普通建設事業費は、山方中学校改築工事の計上等により、増額となっています。

「健やかで笑顔の暮らしを育むまち」づくり

健康診査

124,482千円

疾病の早期発見・早期治療のため、健康検査事業の充実を図ります。

予防接種

84,151千円

従来の定期予防接種のほか、引き続き子宮頸がん、ヒブ、小児用肺炎球菌のワクチン接種費用を助成します。



母子保健

34,048千円

乳児健康検査及び相談事業を実施し、母子の健康増進を図ります。

医療福祉費支給

292,382千円

小児、母子・父子家庭、重度心身障がい者、妊産婦の医療費自己負担を助成します。

特別保育

64,827千円

一時預り、休日、延長、乳児及び障がい児保育等の特別保育を実施し、子育て支援を推進します。

放課後児童健全育成

40,913千円

就労等で保護者が昼間不在の小学校児童を預り、健全育成を図ります。



保育所保育料負担軽減

43,556千円

保育所に通う第3子以降の保育料を無料化することにより、保護者負担の軽減を図り、児童福祉の充実を図ります。

子ども手当

643,588千円

次代を担う子どもの健やかな成長を社会全体で応援するため、手当を支給します。



障害者地域生活支援

27,566千円

障がい者の地域での生活を支える各種サービスを実施し、福祉増進を図ります。

自立支援給付サービス

600,230千円

障がい者（児）の日常生活や社会生活支援に必要な福祉サービスに支援を行い、福祉増進を図ります。

医師確保対策助成

15,005千円

市内の公的医療機関で医師として従事希望の医学部学生に修学資金を貸与し、医師確保を図ります。

家族介護支援

33,857千円

家族介護慰労金、介護用品を支給するほか、訪問理容サービス事業等を実施し、在宅家族介護を支援します。

高齢者保護措置

56,325千円

養護等が必要な高齢者に対し、入所判定による施設入所の措置を行い、高齢者福祉の増進を図ります。

高齢者生活支援サービス

18,264千円

はり・きゅう・マッサージ施術、寝具類洗濯乾燥消毒サービス、配食サービス事業等を実施し、高齢者の生活を支援します。

高齢者福祉タクシー

23,985千円

高齢者が福祉行事参加や医療機関通院等に要する交通費を助成し、高齢者の福祉増進を図ります。

「豊かで創造的な地域活力を育むまち」づくり



農業生産基盤の整備

153,485千円

県営事業や県補助事業を活用して下岩瀬地区湛水防除、那珂川沿岸かんがい排水、三美地区(大宮)・下伊勢畑地区(御前山)・笹山東地区(美和)・山根西地区(緒川)の土地改良等を実施します。

特色ある農業の振興

53,007千円

県が推進する「エコ農業」、生産性向上に向けた基盤整備や新技術の導入、競争力のある特産物づくりなどに取り組む農家を支援します。

戸別所得補償制度

54,712千円

米の需給調整を実施して米価の安定を図るとともに、水田における米以外の作物の生産を推進し、地域農業の振興を図ります。

森林整備の推進

98,318千円

米の需給調整を実施して米価の安定を図るとともに、水田における米以外の作物の生産を推進し、地域農業の振興を図ります。

森林利用の促進

10,963千円

森林を活用した学習・体験・交流の拠点として「おがわふれあいの森づくり」推進のほか、地域のバイオマス資源を活かした経済振興等として木質バイオマス基本設計に取り組みます。

木造住宅建設助成(市産材利用の促進)

14,400千円

林業の振興と地域産業の育成を図るため、市内で自らが居住する新築住宅を市内建設業者により建築する場合で、5㎡以上市産材を使用する方に、1㎡あたり4万円(上限60万円)を助成します。

中小企業支援等

25,262千円

中小企業の経営安定化を図るため、商工会へ事務委託により各融資制度の斡旋、保証料及び利子補給を行うほか、市内の施工業者により住宅リフォーム工事を行う市民に、工事費の10%(上限10万円)を助成します。

地域資源の活用

23,565千円

市内2大河川的那珂川、久慈川の鮎等を使った特産品づくりや物産センター「道の駅北斗星」「かざぐるま」での農林水産物等の販売促進、地域情報の発信を展開するとともに、地域活性化に向けて新たに国道118号沿線に「道の駅」の整備を推進します。

観光情報の発信

11,733千円

観光案内や観光事業の拠点となる市観光協会の活動を支援するとともに、合併5周年記念事業で選定したマスコットキャラクター「ひたまる」のPR事業を展開し、市の魅力を積極的に発信します。

観光資源の発掘・活用

120,726千円

魅力あふれる常陸大宮市をPRするイベント(祭り等)を支援するとともに、観光・レクリエーション施設を活用して地域振興を図ります。



「大いなる交流と発展を支え促すまち」づくり

道路整備

500,583千円

市の均衡ある発展と安全で快適な住環境を確保するため、市道の改良、舗装を行うとともに、橋梁を調査・点検して実態を把握し、計画的に修繕を行うための「橋梁長寿命化修繕計画」を策定します。



交通体系の整備

139,539千円

市民の公共施設等への交通の利便性向上と交通不便地域の改善を図るため市民バスや予約制乗合タクシーを運行するとともに、公共交通機関確保のため路線バス運行事業者への補助や水郡線市民列車運行事業等を実施します。

「のびやかな人・文化を育むまち」づくり

国際化に対応した教育の推進

74,535千円

児童、生徒の英語学力向上や国際社会に対応できる人材育成として、小中学校に英語指導員（指導助手）配置事業及び中学生海外研修事業を実施します。

幼稚園保護者負担軽減

16,496千円

幼稚園児保護者の負担軽減として、3歳から5歳児の入園料及び保育料の減免を行うため、私立幼稚園設置者及び公立幼稚園保護者（市内在住）に補助金を交付します。

特色ある教育内容の充実

79,317千円

学校の教育指導の充実等を図るため、指導主事、学校教育指導員、障がい児介助員、特別支援教育支援員等を配置するほか、郷育立市づくり・地域力活用基礎学力支援プラン推進事業や中高一貫教育など、特色ある教育を推進します。

通学対策

98,134千円

遠距離通学の児童生徒の通学手段や安全を確保するため、スクールバスを運行するほか、路線バス運行事業者に負担金を支払います。

教育支援センター・カウンセラー等配置

9,643千円

家庭や学校からの教育上の諸問題についての相談や児童生徒への援助、指導等に対応するため、教育支援センターにカウンセラー及び相談員を配置します。

学校施設整備

632,139千円

学校施設の耐震補強・改修を行い、安全・安心な教育環境の整備を図ります。平成24年度は、前年度からの継続事業により山方中学校改築工事を実施します。

ふれあいの船

13,000千円

船を利用した共同生活により、学校では得られない体験活動を通して、思いやりや友情、ふれあいや出会いを大切にする心を養うことを目的に「ふれあいの船事業」を実施します。

放課後子ども教室

13,254千円

市内9校の空き教室等を活用して、放課後の子どもたちの安心・安全な活動拠点をつくり、地域の方の参画を得て、勉強・スポーツ・文化活動・交流活動等を実施します。



スポーツ・レクリエーション

144,881千円

社会体育施設を適切に維持管理するとともに、市体育協会やスポーツ関係団体と連携して、スポーツ教室や講習会等を開催し、市民の健康・体力づくりを推進します。



生涯学習

63,000千円

0歳児からの読書を推進するブックスタート事業、誰でも参加できる公民館講座や生涯学習自主事業の開催など、生涯学習の機会を提供します。

「みんなの手作りで築くまち」づくり

自治組織の育成支援

40,006千円

自治組織の活性化と市民主体による活力ある地域社会の確立に向けて、区が実施する事業に対して支援を行います。



集落支援

1,578千円

65歳以上の高齢者が集落人口の40%を占め、集落機能が著しく低下している集落に対し、集落支援員を配置して、住民とともに集落の維持・活性化策を検討し、実践していきます。

「さわやかで美しい快適なまち」づくり

地域防災計画見直し等

6,780千円

東日本大震災の経験等を踏まえ地域防災計画を全面的に見直すとともに、自主防災組織の充実強化や防災訓練を実施し、住民の安全・安心の確保を図ります。

消防庁舎等整備

85,194千円

防災拠点の消防庁舎（西署）耐震補強改修等及び簡易指令システムを整備し、迅速な地域防災対策の充実強化を図ります。

防火水槽整備・消防団消防設備整備

89,936千円

計画的に防火水槽及び消火栓を整備し、消防団に配備している消防車両の更新やホース乾燥柱の移設、機械器具置場等の修繕を行い、地域消防力の充実を図ります。

環境基本計画推進管理

4,295千円

地球温暖化・公害・ごみ問題等対策の基本となる「環境基本計画」を策定し、行政・事業者・住民が一体で環境対策の推進を図ります。



住宅用太陽光発電システム補助・省エネルギー推進

8,828千円

太陽光発電システム設置費用、エコ給湯器導入費用を助成し、新エネルギー導入及び省エネルギーの推進を図ります。

ごみの減量化・再利用・再資源化

17,898千円

今後5年間の一般廃棄物処理目標を定めた基本計画を策定し、環境保全推進協議会を中心組織として、ごみの減量化、再資源化を推進します。

環境に配慮したごみの適正処理

423,210千円

ごみステーションを適切に設置し、一般廃棄物処理計画に基づき委託によるごみ収集、大宮地方環境整備組合・城北地方広域事務組合施設でのごみ処理を行い、一般廃棄物の適正処理を推進します。

防犯対策

23,419千円

犯罪の未然防止を図るため、各区からの要望に基づき防犯灯を設置するとともに、警察や防犯協会など関係機関との連携のもと、防犯パトロールや防犯キャンペーンを行い、地域ぐるみの防犯活動を推進します。



ひたまるさんちの家計簿

平成24年度の一般会計を1/5000に縮小して家計簿を作りました。市の財政と家庭の家計簿では仕組みが違うので、完全な置換えが難しくわかりづらいところがあることをご了承ください。



収 入 () 内は前年度の金額			
収 入 費 目	家計の収入	市 予 算 額	歳入区分 (目的別)
給 料	108万円 (110万円)	54億338万円 (54億9,658万円)	市税・分担金・負担金・ 使用料及び手数料等
実家からの援助	236万円 (237万円)	117億8,179万円 (118億6,614万円)	地方交付税・各種交付 金・国県補助金等
不動産収入	1万円 (1万円)	5,961万円 (6,040万円)	財産収入等
銀行などからの 借 入 金	45万円 (43万円)	22億5,700万円 (21億2,890万円)	市債
貯金の取崩し	11万円 (14万円)	5億4,822万円 (6億8,798万円)	繰入金
前年度の残金	6万円 (6万円)	3億円 (3億円)	繰越金
1年間の収入合計	407万円 (411万円)	203億5,000万円 (205億4,000万円)	
自 分 の 収 入 (自主財源)	126万円 (131万円)	63億1,121万円 (65億4,496万円)	
他からの収入 (依存財源)	281万円 (280万円)	140億3,879万円 (139億9,504万円)	

支 出 () 内は前年度の金額			
支 出 費 目	家計の支出	市 予 算 額	歳出区分 (性質別)
食 費	87万円 (91万円)	43億6,848万円 (45億3,913万円)	人件費
電 気 費	62万円 (61万円)	30億9,236万円 (30億5,757万円)	物件費 (予備費含む)
医 療 費 介 護 費 用 等	60万円 (61万円)	30億1,393万円 (30億4,757万円)	扶助費
ローンの返済	66万円 (68万円)	32億8,690万円 (33億7,878万円)	公債費
家・車の修理代等	5万円 (5万円)	2億4,612万円 (2億3,286万円)	維持補修費
区会費お祝金等	34万円 (35万円)	17億294万円 (17億6,243万円)	補助費等
子 ども へ の 仕 送 り	58万円 (58万円)	28億9,033万円 (29億367万円)	操出金
家の増改築・ 車の購入代等	33万円 (30万円)	16億5,477万円 (15億2,418万円)	投資的経費 (普通建設 事業費・災害復旧費)
友人へ貸したお金	1万円 (1万円)	3,617万円 (3,217万円)	投資及び出資金・ 貸付金等
貯 金	1万円 (1万円)	5,800万円 (6,164万円)	積立金
1年間の支出合計	407万円 (411万円)	203億5,000万円 (205億4,000万円)	

問い合わせ 総務部 財政課 財政グループ
52-1111 (内線375)

常陸大宮市 総合計画後期基本計画を策定しました

常陸大宮市では、平成18年度に平成28年度を目標年度とした「常陸大宮市総合計画基本構想」及び平成23年度までを計画期間とした「前期基本計画」を策定し、基本構想に定めた市の将来像「豊かな自然と調和した安心・快適な活力のまち」の実現に向けて、様々な行政施策に取り組んできました。

この前期基本計画が平成23年度をもって終了するため、平成24年度を初年度とする後期基本計画を策定。3月、市議会定例会で議決されました。その概要をご紹介します。

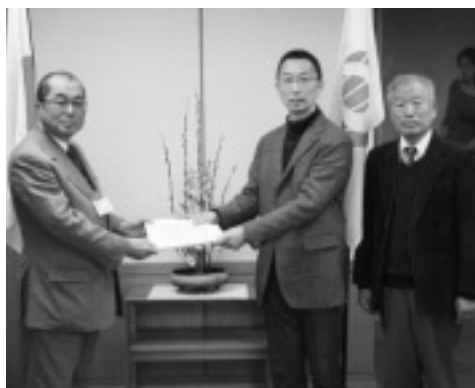
常陸大宮市 総合計画審議会の答申

後期基本計画の策定に当たっては、常陸大宮市総合計画審議会（渋谷敦司会長ほか委員25人）に諮問しました。

総合計画審議会では、平成23年10月28日に三次市長が諮問した「常陸大宮市総合計画後期基本計画案」について、慎重に調査・審議を重ねました。

その結果、平成24年1月16日に次のような要望事項を添えて三次市長へ答申されました。

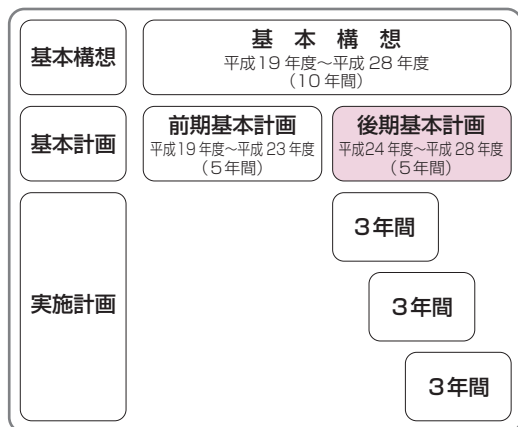
- 安全・安心なまちづくりの推進
- 元気なまちづくりの推進
- 情報の提供と市民の参画
- 施策の点検評価と推進
- 社会変化等への対応



▲左から三次市長、渋谷会長、河野副会長

総合計画の意義と役割

総合計画は、常陸大宮市の魅力・活力を創造しながら、地方分権時代に対応する自治体として自立性を高め、地域の均衡ある発展と福祉の向上を目指し、市民とともにまちづく



りを総合的に推進していくための指針となるものです。

今回策定したのは後期の基本計画で、基本構想を実現するための部門別の主要な施策を体系的に定めるものです。

また、計画期間は、平成24年度から平成28年度までの5年間とします。

目標人口は4万4千人

全国的に少子高齢化が進行する人口減少社会にあって、本市においても依然人口減少の傾向が続いていて、特に山間部などの地域では、高齢化とともに集落やコミュニティの維持が困難になるなどの事態も懸念されるなど、本市における人口の維持は依然大きな課題となっています。

将来像である「豊かな自然と調和した安心・快適な活力のまち」の実現を目指す本市においては、厳しい状況ながらも、市街地や集落地それぞれの特性に応じた居住環境の充実を図り、人口の維持に努めるとともに、工業団地へのさらなる企業誘致や市南部の国道118号周辺などへの商業施設の立地などに伴う就業者など、新たな人口の定着を促していくこととし、平成28年における目標人口を約4万4千人とします。



後期基本計画の視点

後期基本計画では、社会情勢の変化や震災の経験などを踏まえ、次の5つの視点をもって、誰もが安全・安心・快適に、そして元気に暮らすことができるまちづくりに取り組めます。

1 安全・安心なまちづくりへの取り組み

災害に強い、災害に対応できる安全なまちづくり

救急救助体制や機材の充実、災害時の迅速な体制づくりなど、市の防災体制の強化を図るとともに、地域の地形などの特性、災害の歴史などをみんなで学び、知り、実践的な防災・安全対策に生かす、さらに自主防災組織の強化を図るなど、地域コミュニティに根ざした災害に強い、災害に対応できる安全なまちづくりに取り組みます。

生涯、健康に暮らし続けることができる安心なまちづくり

保健・医療・福祉の連携のもと、高齢者や障がい者、子育て世代など誰もが適切な医療・福祉サービスを受けることができ、生涯健康やかに、安心して暮らすことのできるまちづくりに取り組みます。

2 環境問題への積極的な取り組み

自然を愛し、環境を守るまちづくり

豊かな森と清流、田園環境など、自然との共生を基本とした土地利用や環境・景観の保全対策に市民・企業・行政が一体となって取り組み、本市の誇りと魅力を守るまちづくりに取り組みます。

環境負荷の少ないまちづくり

地球温暖化対策、低炭素都市づくりなど、環境負荷の少ないまちづくりに市民・企業・行政が一体となって取り組むとともに、自然エネルギーなど再生可能なエネルギーの導入に先進的に取り組みます。

3 元気なまちづくりへの取り組み

農林業、商工業、観光の連携による産業の活力づくり

農林業、商工業、観光との連携を図るとともに、本市の自然や歴史・文化資源、交流施設など魅力ある資源の活用・連携により新たなしごとや魅力ある環境を創出し発信するなど、市の知名度を高め、市の元気づくりに取り組みます。

元気を支える都市基盤づくり

市の元気づくりを支える基盤として、地域特性や目的に応じた効果的

な基盤整備を図るとともに、新たな企業誘致や従業者などの定住化に取り組めます。

子どもたちの元気な声が響くまちづくり

子育てに関するきめ細かな支援・相談など、若い世代が、子育てに夢を持ち、かつ、安心して子どもを生み育てることができ環境を整備し、多くの子どもたちが元気に育つまち・地域づくりに取り組みます。

人口減少に歯止めをかける元気な地域づくり

若年層の人口定着を促す就労の場づくり、高齢者の能力の活用、地域資源を活用した地域間交流の推進など過疎対策を進め、みんなが元気でいきいきとふれあうことのできる地域づくりに取り組みます。

4 夢を持ち、未来を担う人づくりへの取り組み

郷土を愛し、市の未来を担う人づくり

「郷育立市」づくりの推進をはじめ、地域の誇りや郷土愛を育みながら、本市の未来を担う子どもたちの健全育成を図ります。

夢のある人、やる気のある人を支援していくまちづくり

人材育成の観点から夢のある人、やる気のある人をサポートし、自発的な学習や新たな市民活動、文化活動、しごとづくりなど、市民主体の

活力ある地域づくりにつなげます。

5 ふれあい・支え合いで築く一体感あるまちづくりへの取り組み

地域コミュニティの活性化と協働を基本とする地域づくり

地域コミュニティの維持・活性化を基本に、共に支え合う環境をつくり、歴史・文化の発見、地域イベント・お祭りの再生などに協働して取り組むなど、地域の一体感と元気を育んでいきます。

協働を実践する行政と市民の新たな関係づくり

市民との役割分担や実践的な推進体制を明らかにしながら、協働のまちづくりを実践します。

詳しくは、4月25日配付の後期基本計画〔概要版〕をご覧ください。



■問い合わせ■

企画政策課企画政策グループ
☎ 52-11111 内線310

市議会臨時会

平成24年第1回常陸大宮市議会臨時会が、2月16日に開会され、次の議案が審議され、可決されました。

条例

○常陸大宮市介護保険条例の一部を改正する条例

平成23年度補正予算

○平成23年度常陸大宮市一般会計補正予算

市議会定例会

平成24年第1回常陸大宮市議会定例会が、2月28日から3月23日まで開会されました。この定例会では、次の議案の審議が行われ、可決されました。

市長提出議案

平成24年度予算

○常陸大宮市一般会計・特別会計（11会計）予算

条例

○常陸大宮市震災復興基金条例
○常陸大宮市行政組織条例の一部を改正する条例
○常陸大宮市移動通信用鉄塔施設整備

備事業分担金条例の一部を改正する条例

○常陸大宮市職員定数条例の一部を改正する条例

○常陸大宮市特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例

○常陸大宮市手数料徴収条例の一部を改正する条例

○常陸大宮市公民館の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例

○常陸大宮市立図書館の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例

○常陸大宮市社会体育施設条例の一部を改正する条例

○常陸大宮市火災予防条例の一部を改正する条例

○常陸大宮市老人福祉施設の設置及び管理に関する条例を廃止する条例

○常陸大宮市肉用牛特別導入事業基金条例を廃止する条例

平成23年度補正予算

○常陸大宮市一般会計・特別会計（11会計）補正予算

その他

○常陸大宮市総合計画後期基本計画について

○市道路線の認定、廃止、変更について

○指定管理者の指定について

○工事請負契約の締結について（2件）

教育委員会点検・評価実施

市教育委員会では、地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づき、平成21年度より教育行政点検評価委員会を設置し、教育委員会の事務の管理執行状況の点検・評価を行っています。

評価委員は、茨城大学教育学部的小泉教授、茨城県県南生涯学習センターの新家次長、元市代表監査委員の浅川氏の3人に委嘱。平成23年12月と平成24年1月に、「平成22年度の評価に関する事務の管理及び執行状況の点検・評価に関する報告書」をもとに教育行政点検評価委員会が開催されました。

点検及び評価は、11事業を選定して行われ、見直し1事業、現行どおり10事業という結果となりました。

見直しと評価されたのは、市立幼稚園で実施されている「預かり保育推進事業」で、利用者が少ないことから、今後の幼保統合や民間保育所との連携を視野に入れた新しいシステムの検討が必要との意見が出されました。

その他の意見等については、市ホームページをご覧ください。

市教育委員会では、今後も毎年委員会を開催し教育委員会の活動の透明性を高め、市民に信頼される教育

行政を推進していきます。

問い合わせ

教育委員会

教育総務課教育総務グループ

☎ 52-1111 内線 348

常陸大宮市東北関東大震災義援金配分委員会が開催されました

2月27日、第2回常陸大宮市東北関東大震災義援金配分委員会が開かれ、義援金の追加配分基準を次のとおり決定しました。

配分金額

◆全壊（住宅） 6万円

◆半壊（住宅） 3万円

（大規模半壊含む）

支給方法

常陸大宮市災害見舞金申請時に指定していただいた口座に振り込みました。

問い合わせ

福祉課 社会福祉グループ

☎ 52-1111 内線 132

ご支援ありがとうございました ～「東日本大震災」義援金受付終了～

東日本大震災における当市の義援金の受付は、3月30日で終了させていただきました。

皆さんの温かいご支援に感謝し、受付状況をご報告させていただきます。

466件
26,520,023円



放射線量測定装置設置

3月上旬、市役所敷地内北側に、放射線量を測定する放射線監視装置が設置されました。

この装置は、国により設置された物で県内に39基設置されています。24時間リアルタイムで地上1メートルの放射線量を測定するもので、計測された放射線量が電光掲示板に表示されます。

また、市内には市役所のほか、根本地区の上野小学校にも線量測定装置があり、常時放射線量を測定しています。数値は市役所1階に設置してある環境放射線監視データ表示装置で確認することができます。（土曜・日曜日、祝日を除く午前8時15分から午後5時30分）

東日本大震災から1年

東日本大震災からちょうど1年となる3月11日、市文化センター小ホールで、東日本大震災における感謝状贈呈式と講演会が開催されました。

贈呈式では、災害応急に尽力された7団体と支援物資等を提供された29団体2個人に対し、市長より感謝状の贈呈が行われ、災害時の協力に対し、改めて感謝の意を表しました。

また、贈呈式終了後には、（財）原子力安全技術センターの田村勝裕氏を講師に迎え、「身の回りの放射線と食の安全」と題した講演会が行われ、野菜や果物を食べた場合等の年間被ばく線量を具体例に挙げ、健康影響に関する説明がなされ、正しい知識を得ることができました。

さらに、地震発生の午後2時46分には1分間の黙とうを実施。犠牲者の方のご冥福を祈りました。



スポーツ大会結果

第6回常陸大宮市近郊交流卓球大会

開催日：3月4日
主催：市卓球連盟（寺門信義会長）
会場：西部総合公園体育館
参加チーム：136チーム
（男子72チーム・女子64チーム）

男子の部

優勝 球友クラブ JrA
準優勝 東海クラブ
第3位 益子町立益子中学校A
茂木町立逆川中学校A

女子の部

優勝 東海クラブA
準優勝 藤代卓信会
第3位 市貝町立市貝中学校
小川卓球スポーツ少年団A

善意をありがとう

〈新入学児童の安全を願って〉

敬称略



茨城みどり農協（柏盛幸組合長）
通学帽

～広報常陸大宮3月号に誤りがありました～

P 6 「平成24年度常陸大宮市行政組織・機構図」

誤 医療保険課 医療保険G
正 医療保険課 医療保険G
国保美和診療所 国保緒川歯科診療所

お詫びして訂正します。

完成したふたつの「いずみ」
展示中！

分かりますか？どうですか？

広報常陸大宮で7回にわたり修復とレプリカ作成の様子をお伝えしてきた、市内泉坂下遺跡出土の人面付土器「いずみ」。作業が完了し、去る3月下旬、10カ月ぶりに資料館に帰って来ました。

表紙の写真をご覧ください。どちらが本物で、どちらがレプリカ（複製品）か、お分かりになりますか？「写真では分からない」という方は、資料館に並べたふたつをじっくり見比べて、本物と思う方に投票してください。さあ、皆さんは「本物の分かる人」になれるでしょうか！？

本物いずみ。まもなく全国行脚

日本国内では、毎年約7千件の発掘調査が行われています。文化庁では、その中で近年特に注目されている約20遺跡、5百点ほどの遺物を厳選して、毎年「発掘された日本列島」展を開催し、国内各地を巡回させています。この今年度の列島展に、修復の完了した「いずみ」を含む泉坂下遺跡出土の土器5点と玉類5点が出展されることとなっていて、壮行会も兼ねて、貸し出すまでの間（5月中旬頃まで）これらの遺

物を常設展の一角に展示しています。こちらまでぜひ注目ください。

いずみ。本の表紙になりました

このたび出版された『列島の考古学 弥生時代』の表紙カバーを、銅鐸やガラス製の腕輪とともに「いずみ」の写真が飾りました。もちろん、本文中にもカラーで掲載されていて、隣りのページには市内小野天神前遺跡で出土した人面付土器（茨城県立歴史館所蔵）も載っています。これは、常陸大宮市の人面付土器が日本の弥生時代を代表する出土品として評価された証拠。子どもたちの教科書に採用される日も近いかもしれません。

滅多に見ることのできないレプリカ製作に使用した型も展示中。この機会に、歴史民俗資料館に足を運んでみてください。



市民の方からの まちのできごと

第7回JAバンク茨城Cupで準優勝

大宮サッカースポーツ少年団
指導者 大林 栄一

「ケースデンキスタジアムで決勝戦！」を目標に予選をすべて無失点で勝ち上がり、ついにそれを全員の力で実現しました。

そして迎えた3月4日の決勝戦。この試合はJ2水戸ホーリーホックの開幕戦の前座試合として行われました。チャンスを生かしきれず、惜しくも優勝は逃しましたが、多くの観客が見守るなかプレーできたことは、サッカーの神様が夢に向かう子どもたちの努力を少しだけ認めてくれたのだと思います。



いっしょにまちづくり

一緒に研究しませんか？



茨城大学人文学部
社会科学科4年
二川ナオミさん

今年も茨大生の常陸大宮市における研究活動を発表する「アクションミーティング」を3月3日に開催しました。私は仲間とともに「交流活動に取り組む市民グループと学生の協働についての分析」というテーマで発表しました。先輩たちの過去のアクションミーティングでの発表を踏まえて研究活動をより発展させる

ために、私たちは特に協働の中長期的な将来ビジョンを描くことに挑戦しました。あくまでも学生の視点だけからみた協働の将来ビジョンで、その名も「勝手に5カ年計画」というものでしたが、発表後の反響は大きく、多くの方々と意見交換ができ、また一步市民の方々との距離を縮めることができたと感じています。

次年度のアクションミーティングでは、「勝手に5カ年計画」を、今度は市民の方々との意見交換を踏まえた上で「勝手ではない5カ年計画」にブラッシュ・アップ*し、共同研究として一緒に発表できたらと考えています。

※ブラッシュ・アップ…磨き上げること

常陸大宮アクションミーティング2012

第3回常陸大宮市

まちづくりネットワーク大会

3月3日
開催



市と連携事業を行っている茨城大学の学生やまちづくりネットワークの登録団体13団体のうち9団体と市民が参加し、「常陸大宮アクションミーティング2012」「第3回常陸大宮市まちづくりネットワーク大会」が、おみやコミュニティセンターで開催されました。

アクションミーティングでは、茨城大学の学生が連携事業の事例・研究発表を行い、まちづくりネットワーク大会では、盛金WAC協議会とフロイデDANの2団体が、それぞれ大宮地域と山方地域にオープンさせたコミュニケーションカフェの活動報告を行いました。その後、参加者全員が参加して、同じテーマのもと意見を交換しました。

会場には、連携事業に携わった学生や市民、まちづくりに積極的に活動されている市民団体の関係者約90人が集まり、団体や個人のつながりを深めました。

常陸大宮アクションミーティング2012



3つの事例・研究発表が行われました。

①常陸大宮の新たな創作料理ができました!!!

⇒「アルベトレッペ食堂」の取り組み報告

②やるしかないっしょ! つながるっしょ!

ひたちOh☆宮

⇒塩田地区で行っている畑を通じた都市交流と地域活性化のための今後の計画

③地域活性化の活動を発信しよう、知ってもらおう!

⇒連携事業に携わった学生の卒業後の常陸大宮市と関わり方と情報発信の仕組みづくり



◀昨年11月に水戸市自由広場で開催された「アルベトレッペ食堂」。茨城大学は、食堂で提供された創作料理食材の生産者として参加

第3回常陸大宮市まちづくりネットワーク大会

コミュニケーションカフェについての発表後、参加者全員が8つのグループに分かれて、「常陸大宮市のキャッチフレーズを作成しよう!」をテーマに意見交換を行いました。

そして、常陸大宮市の魅力、自慢、将来目指したい方向などをあげ次のようなキャッチフレーズを完成させました。

●●● キャッチフレーズ ●●●

- ① まずは来てみてDEEPな魅力!! 常陸大宮
- ② 宝探しができる^{まち}郷
- ③ 見つけよう育てよう広げよう常陸大宮市
- ④ 常陸大宮市はキラッキラな土地
- ⑤ 都会では味わえない懐かしの原風景へタイムスリップ常陸大宮
- ⑥ むすびの里山ひたちOh! 宮
- ⑦ 来たらがっぺ!! 四季の実を感じるまちOh! 宮
来なきゃ分からないアドベンチャー Oh! 宮
- ⑧ やさしいまち、常陸大宮



スズメ蜂対策

春の対策



春になると女王蜂は冬眠から覚め、一匹で巣を作ります（営巣）。そして、巣の中で卵を生み、狩猟をしながら働き蜂を育て、巣を徐々に大きくしていきます。働き蜂は夏から秋にかけてどんどん増え、数が多くなるほど外敵に対する攻撃性は高くなり、危険性も大きくなります。

家の近くや屋根の軒下などに巣が作られた場合、巣が巨大化する前に駆除できれば危険は少なくて済みます。また、人が生活する身近な場所に巣を作らせない対策をとることも重要（必要）です。

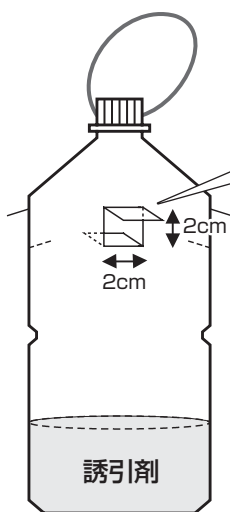
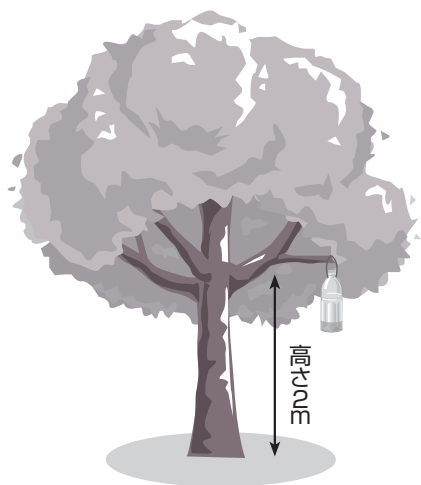
ペットボトルでハチトラップを作しましょう

トラップで使用する誘引剤は、樹液と同じようなにおいを作り出し、飛んでいるスズメ蜂（女王蜂）をおびき寄せて捕獲します。

ハチトラップの作り方の一例を紹介します。

- ◆ 材料 ①2ℓまたは1.5ℓのペットボトル
②酒300ml・酢100ml・砂糖125g
③ひも

- ◆ 手順 ペットボトルにカッターで蜂の入口となる穴（図参照）を2～4カ所作る。次に②をよく混ぜ合わせ誘引剤を作り、ペットボトルにひもをつけてから誘引剤を入れ、木の枝など半日陰になるような所にぶら下げる。



上部は屋根を作るように手前に、下部は奥に折り曲げる。

注1 誘引剤が少なくなったら水または誘引剤を足してください。

注2 誘引効果は条件により異なる場合があります。

巣を作りやすい場所



頻繁に飛来している場合はどこから飛んでくるのか行き先を確認しましょう。家の周りを定期的に点検し、整理整頓を心掛け、資材などの物を長期間放置しないようにしましょう。

■ 問い合わせ ■ 環境課 環境推進グループ ☎52-1111（内線123）

人事異動

【平成24年3月31日付】

退職

増子司（総務部総務課参事）・木村博（市民部長）・長山勝善（市民部市民課長）・細貝勇（市民部市民協働課長）・堀江克己（保健福祉部長）・皆川秀行（保健福祉部介護高齢課長）・篠田和美（保健福祉部介護高齢課長補佐）・栗田久男（保健福祉部医療保険課国保美和診療所事務長兼国保緒川歯科診療所事務長）・瀧幸江（保健福祉部健康推進課長補佐兼保健師）・内田均（経済建設部次長兼都市建設課長）・三次重雄（上下水道部長）・立原正雄（上下水道部水道課参事）・宮本正詞（山方総合支所長兼市民福祉課長）・増田一朗（山方総合支所市民福祉課参事）・木村唯弘（山方総合支所経済建設課長）・大森昇一（山方総合支所経済建設課副参事）・萩谷孝行（美和総合支所長兼経済建設課長）・内藤節子（美和総合支所市民福祉課副参事）・三村操（緒川総合支所長兼経済建設課長）・市野澤政勝（緒川総合支所市民福祉課長）・小室節子（緒川総合支所市民福祉課長補佐）・石川昌和（御前山総合支所長兼市民福祉課長兼御前山保健福祉センター長）・仁瓶勝一（御前山総合支所経済建設課技

術員）・木内文子（会計管理者兼会計課長）・木村則義（教育委員会事務局教育次長）・相田敬一（教育委員会学校教育課長・岡崎けい子（美和幼稚園課長補佐兼主任教諭）・石川勇（大宮学校給食センター副参事）・四倉栄子（御前山学校給食センター調理手）・相田優（西消防署長）

新規採用

和田宏昭（総務部税務徴収課）・神長直樹（総務部税務徴収課）・石崎美帆（市民部市民課）・大津祥久（市民部安全まちづくり推進課）・細貝久子（保健福祉部福祉課大賀保育所）・谷口小百合（保健福祉部健康推進課）・秋山大祐（経済建設部農林課）・小瀧德行（経済建設部都市建設課）・鈴木秀俊（上下水道部水道課）・岡山幸恵（会計課）・菊池愛里（教育委員会学校教育課）・鈴木敬士（消防本部総務課）・黒澤拓也（消防本部総務課）・小森諒（消防本部総務課）

配置換え（課長級以上のみ記載）

政策審議室

秘書広聴課長 菊池 清一
企画政策課長 坂井 秀規

総務部

次長兼財政課長 猿田 茂彦
総務課長併監査委員事務局長 三村 勝重

税務徴収課長 小橋 克

市民部

部長兼危機管理監 内藤 義信
次長兼環境課長 小野瀬義則
市民課長 片岡里津子
市民協働課長 宇留野 功
安全まちづくり推進課長 渡辺 勝秀

保健福祉部

部長 小林 俊雄
次長兼福祉事務所長兼福祉課長 飯島 弘道

介護高齢課長 河西 秀美
医療保険課長 宇留野美雪

国保美和診療所事務長兼国保緒川
歯科診療所事務長 坪 道雄

健康推進課長兼総合保健福祉
センター所長 横山 伸一

経済建設部

部長併農業委員会事務局長 大内 清美

次長兼商工観光課長 海老根聖仁
都市建設課長 梶 幸雄

上下水道部

部長 木村 剛雄
次長兼水道課長 坪 清巳
下水道課長 安藤 孝志

山方総合支所

総合支所長兼市民福祉課長 木村 悟
経済建設課長 金子 淳

美和総合支所

総合支所長兼経済建設課長 高野 輝雄

市民福祉課長 坪 栄一

緒川総合支所

総合支所長兼市民福祉課長 糟谷 式部
経済建設課長 大坪 重一

御前山総合支所

総合支所長兼市民福祉課長兼
御前山保健福祉センター長 鈴木 治雄
経済建設課長 安藤富士夫

すぐ対応課 菊地 茂

会計課

会計管理者兼課長 安藤 克己

農業委員会

事務局次長 齋藤 秀男

教育委員会事務局

教育部長 皆川 修
次長兼教育総務課長 皆川 清貴
学校教育課長 金子 和司
生涯学習課長兼歴史民俗資料館長 桑名 清巳

消防本部

警防課長 木村 利治
予防課長 中崎 徳一
西消防署長 鈴木 紀明



後期高齢者医療保険制度の保険料が変わります



平成24年度及び平成25年度の後期高齢者医療保険料率

平成24年2月28日に開催された平成24年第1回茨城県後期高齢者医療広域連合議会定例会において、平成24年度及び平成25年度の後期高齢者医療保険料率及び賦課限度額が決定されました。

後期高齢者医療制度では、公費が約5割、現役世代からの支援金が約4割、被保険者の後期高齢者医療保険料が約1割を負担することにより、被保険者が受ける医療に係る給付等を行っています。

		平成24・25年度	平成22・23年度（参考）
保 険 料	均 等 割 額	39,500円	37,462円
	所 得 割 率	8.00%	7.60%
保険料の賦課限度額（上限額）		55万円	50万円

- 保険料率（均等割額・所得割率）は、都道府県単位で計算され、2年ごとに見直されます。

保険料率が上昇する主な理由

・平成20年度から22年度までの茨城県における被保険者一人当たり医療給付費の平均増加率が約3.4%で、医療給付費が増加傾向にある。

・国が定める後期高齢者負担率^{*1}が10.26%（平成22・23年度）から10.51%（平成24・25年度）に上昇した。

※1 後期高齢者負担率は、被保険者が負担する保険料が医療給付費等の費用に占める割合です。世代間負担の公平性の観点から、若年人口の減少に応じて、後期高齢者負担率（保険料の負担割合）が上昇する仕組みとなっています。

個人ごとの保険料額の決め方

1年間の保険料額 (100円未満切捨て)	=	均等割額 39,500円	+	所得割額 (賦課のもととなる金額) ^{*2} × 8.00%
-------------------------	---	-----------------	---	---

※2 賦課のもととなる金額 = 総所得金額等^{*3} - 基礎控除33万円

※3 総所得金額等とは、前年の収入から必要経費（公的年金控除額や給与所得控除額など）を差し引いたもので、社会保険料控除、配偶者控除などの各種所得控除前の金額です。なお、遺族年金や障害年金は、収入に含みません。

平成24年度及び平成25年度の保険料の軽減

平成24年度及び平成25年度においても、従来の保険料額の軽減措置が継続されます。

そのため、所得の少ない方（世帯）や後期高齢者医療制度に加入する前に会社などの健康保険の被扶養者だった方は、引き続き、保険料均等割額及び所得割額が軽減されます。

<保険料均等割額の軽減の例>

世帯（被保険者と世帯主）の総所得金額等が次の場合	均等割額の軽減割合
33万円を超えない世帯で、被保険者全員が年金収入80万円以下の世帯（※その他各種所得がない場合）	9割
33万円を超えない世帯	8.5割
33万円＋「24.5万円×世帯の被保険者数（被保険者である世帯主を除く）」を超えない世帯	5割
33万円＋「35万円×世帯の被保険者数」を超えない世帯	2割

■ 問い合わせ ■

保険料の計算について 茨城県後期高齢者医療広域連合 事業課 ☎029-309-1213

保険料の納付について 税務徴収課 市民税グループ ☎52-1111（内線232）

ふるさと見て歩き

第66回

堀切峠

水戸と奥州南郷

(福島県南部、塙町周辺)を結ぶ南郷街道(南郷道)は、現在の国道一一八号線とほぼ同じルートをたどる、江戸時代に整備された道(「往還」ともいう)です。同じように水戸藩領内を南北に貫く道は、他に陸前浜街道、棚倉道などがあり、それらを結ぶ東西道や河川や湖沼を結ぶ水上交通も急速に発達したのが江戸時代でした。

江戸時代、道は幕府管轄の五街道(東海道・中山道・甲州道中・日光道中・奥州道中)と、管理責任を領主

がもつ脇往還とに区分して整備され、宿駅には伝馬制度が敷かれました。一般に「南郷街道」と称されていますが、「街道」「道中」という呼び名はこの五街道についてのみ使われますので、正確には「南郷道」「南郷往還」と称されるべきでしょう(本稿では以下「南郷道」と記します)。

この南郷道については水戸藩の地誌に記述が散見されます。中でも代表的なのが、水戸藩の下級役人であった加藤善兵衛(寛斎)が書いた「北郡里程間数之記」(以下「間数之記」という書物です。寛斎の記述してい

る道が必ずしもすべて南郷道とはい切れませんが、大きく外れることはないと考えられます。



▲「常陸国北郡里程間数之記」堀切峠
(『山方町誌 上巻』、原資料は国立国会図書館蔵)

ここで「南郷道中の大難所」として現れるのが、盛金地区の曾根山にある堀切峠(殿山峠とも)です。堀切峠の名の由来は、峠道の両脇が土塁状になっていてあたかも堀底道であるかのようなところに由来するのでしょう。「間数之記」には「此所保内エノ往還大難場トス、通行ノ旅人此嶺ノタメ苦悩ス、アルヒハ折々ケガアリ死ス」此辺下り通行ノ旅客落馬シテ溺死度々アリ、駒除ノ塚ヲ

以テ雖防之、年忌トカ云年回ニアタリテ怪我アリ、此洞ノ大難所ナリ」と記され、太子へ向かう際の大難所で、旅人や人馬が度々滑落して死傷する場所だったことがわかります。



▲堀切峠(南側から)

それを示すように、堀切峠の両脇の塚の上には供養塔を含むたくさん石塔が立っています。十七基の石塔のうち、馬を供養するための馬頭観音が四基あります。年代は明治三十五年(一九〇二)から昭和二十八年(一九五三)という比較的新しいものです。同じ場所には念仏塔や庚申塔、六地藏などがあり、江戸時代中期にさかのぼるものもあります。この道が、明治以降もしばらくは使われていたことを意味しています。

峠を越えると現在の太子町西金に入っていきます。ですが、現在は崩落のため通り抜けることはできません。道幅の狭い急斜面の道で、荷物を積んだ馬の通行は命がけだったに違いありません。峠の南側(市内盛金)に比べると、大変な難所である



▲堀切峠の石塔群

ことが実感できます。

堀切峠の所在する盛金地区岡平では、八月下旬の日曜日に峠の子安地藏と六地藏をまつる行事が行われています。岡平班十八戸の住民の方が集まって草刈りをしてお参りし、会食をして楽しく過ごすもので、女性だけでなく男性も参加する地区をあげてのおまつりとなっています。八月下旬に地藏をまつるといふ習俗は、近畿地方を中心に分布する地藏盆の流れを汲むものと考えられます。昨年三月の震災で影響を受けましたが、地元の方々の努力により復旧されました。こうして南郷道の難所、堀切峠の景観が守られているのです。※現在は堀切峠を越えて太子町側に通り抜けることはできません。見学には十分ご注意ください。※高村喜典さんに聞き取り調査にご協力をいただきました。

歴史民俗資料館大宮館
52-11450

《山火事防止》

山火事は貴重な森林を一瞬のうちに消失させる災害です

これからゴールデンウィークを迎え、ハイキングや山菜採りなどで山に入る機会が増えると思います。休憩中に一服…‘何気なく捨てた1本のたばこ’。でも、それが取り返しのつかない大きな山火事につながる可能性があります。山火事の怖さは、火の粉が飛散し同時多発的に着火延焼すること、延焼スピードが速いこと、消火活動が困難なことが挙げられます。山火事は延焼しやすく消火しにくい火災であり、大規模な火災に発展して地域社会に甚大な影響を与えることから、山火事を発生させないことが最も大切です。

一人ひとりの力を合わせ、恐ろしい山火事を防ぎましょう。



山火事を防ぐポイント

- 火気の使用中はその場を離れず、使用後は完全に消火
- 空気が乾燥している時や強風時はたき火、火入れはしない
- 喫煙は指定された場所で行い、吸殻は必ず消し投げ捨てない！
- 火遊びの禁止

「忘れない 山への感謝と 火の始末」

平成24年全国山火事予防運動統一標語

～消防車の紹介～

災害対応特殊水槽付消防ポンプ自動車（車両名：ひたちおおみや1）



この車両は、東消防署に配置されていて、火災の初期段階に必要な消防用水（1,500ℓ）を積載しています。水を積んでいることから、通称「タンク車」と呼ばれています。火災の直近に配置し、消火栓や防火水槽などの水利を利用しなくても、素早く消火活動が行える車です。積載されている機材は、ホースが40本、ホースの延長に使用する電動ホースカーや空気呼吸器、約9m伸長できる三連梯子、排煙機など、消火活動に必要なたくさんの機材が積載されています。また、「緊急消防援助隊・消火部隊」に登録されていて、大規模災害が発生し出動要請が入れば全国へ派遣されます。

積載機材の例





今年の夏は緑のカーテンで

省エネ

今年の夏も電力不足が懸念されます。アサガオやゴーヤで緑のカーテンを作り省エネに取り組みましょう！

緑のカーテンは、日差しを遮り葉から出る水蒸気で室内の温度上昇を抑えるだけでなく、癒し効果や実を収穫して食べるといった楽しみもあります。プランターでの緑のカーテンづくりを紹介します。

1 土の準備

水はけを良くするため鉢底石を敷き、その上にふんわりと土を入れます。



2 種まき

芽が出やすいよう、柔らかい土に種が隠れる程度（1～2mm）にまきます。まきどき（5月～6月頃）



3 水やり

乾きやすいので水やりは毎日行いましょう。（夏は朝と夕の2回）



4 ネットを張る

つるが伸びてきたらネットを設置し、飛ばないように支柱や重石で固定しましょう。



5 追肥

肥料は2週間に1度くらい。やり過ぎると枯れてしまいます！



6 成長したら…

つるが広げたい所まで伸びたら摘芯します。すると横から子づるが伸び出し全体に広がります。



健康通信

常陸大宮済生会病院
櫻村 晃世薬剤師

医師が処方する薬と市販の薬はどのように違うのか

医師が処方する薬は「医療用医薬品」と呼ばれ、医師の診断と処方に基づき使用される医薬品です。効き目が強く、ときに重大な副作用を起こす危険性があるため、医師の処方が必要となります。

一方、市販の薬は「一般用医薬品」「大衆薬」「OTC（Over The Counter）医薬品」と呼ばれ、医師の処方なしで薬局・薬店で購入できる医薬品です。「医療用医薬品」と比べて副作用の心配は少ないですが、副作用、飲み合わせなどの危険性の程度に応じて、3つのグループに分類されています。

第1類医薬品

副作用、飲み合わせの注意が特に必要な医薬品です。販売は薬剤師に限られていて、薬剤師による文書での適切な情報提供が義務付けられています。

第2類医薬品

副作用、飲み合わせの注意が必要な医薬品です。販売は薬剤師または登録販売者が行います。情報提供を受けてから使用してください。

第3類医薬品

副作用、相互作用の注意が多少必要な医薬品です。必要に応じて薬剤師等より情報提供を受けてください。

最近、話題になる市販の薬の中に「スイッチOTC」と呼ばれるものがあります。「スイッチOTC」は医師の処方に基づき使用されていた「医療用医薬品」のうち、長年の使用実績があり、医師の処方なしに使用しても比較的安全とみなされた成分を一般用医薬品に「スイッチ（転用）」した医薬品です。便利な一方、正しく使用する必要があります。

薬の効き目や使用上の注意などは、薬を見ただけでは分からないものです。薬を上手に活用するには、薬剤師に相談してから使用するようにしましょう。その時、症状だけでなく過去の副作用の経験や現在服用している薬、アレルギーの有無なども伝え、適切なアドバイスを受けられるようにしましょう。薬は、適切な選び方や使い方を正しく理解して使用していきましょう。

ひたまるがゆく

第3回 辰ノ口さくら祭り



4月7日 まだかな・・・

4月4日から4月22日にかけて、辰ノ口親水公園でさくら祭りが開催され、久慈川堤防の桜づつみのライトアップが実施されました。

4月7日には市観光協会主催によるイベントが行われ、ひたまるも参加してきました。今年は桜の開花時期が例年より遅く、この日はまだつぼみでしたが、数日後再び訪れてみると満開の花を咲かせていました。



4月16日 満開の桜にうっとり

御前山ビオトープ周辺の植物等



単子葉植物 ラン科アツモリソウ属 花期 4～6月

低地の林の下に生える多年草。葉は扇円形で2枚がほぼ対生するようにつき、長さ8～10cmの大きな花が横向きに1つ咲きます。

平家の若武者、平敦盛の名に由来するアツモリソウに対し、源氏の荒武者熊谷直実の名に由来するクマガイソウ。袋状の唇弁を、熊谷直実が背負った母衣ほろに例えて名前がつけられたものです。

現在は乱獲されたことにより全国的に激減し、絶滅危惧種植物に指定されています。

◎このコーナーは、御前山環境センターにご協力いただき、今月号より毎月連載します。

常陸大宮を笑顔でPR

「第4代常陸大宮観光大使」が決定しました。

2月11日、審査選考会が行われ、市内在住の内田晶子さんとひたちなか市在住の飛田彩哉子さんの2人が選ばれました。

内田さんは、「常陸大宮市の活性化に貢献したい」、飛田さんは「市内のたくさんの魅力的な場所を県内外の方々に広くPRしたい」と抱負を語りました。

2人の大使は、4月7日の第3回辰ノ口さくら祭りを皮切りに、平成26年3月31日まで、お祭りや各種観光イベント等市内外において様々なPR活動を行います。



▲左：内田さん、右：飛田さん

広報 常陸大宮 4月 第91号

発行日 平成24年4月25日

発行／常陸大宮市

編集／秘書広聴課

〒319-2292

茨城県常陸大宮市中富町3135-6

TEL 0295(52)1111 FAX 0295(53)6010

E-mail email@city.hitachiomiya.lg.jp

URL http://www.city.hitachiomiya.lg.jp/

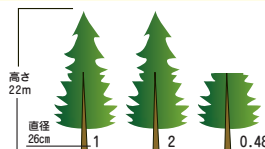


常陸大宮市の人口（4月1日現在・推計常住者）

総人口 44,309人（男 21,684人 女 22,625人）

世帯数 16,176世帯

この印刷物は、常陸大宮市役所が、印刷プロセスで使用する3.41kgのアルミ板をリユースして印刷する事で、CO2排出量を34.65kg削減しました。



34.65kgのCO2削減量とは
樹齢50年(高さ22m・直径26cm)の杉の木約2.48本分が
1年間に吸収するCO2量に匹敵します。

(出典：林業白書)

常陸大宮市役所は、MCPによる印刷を通じ、インドネシア・バリ州の森林再生事業(国立公園内の植樹3,000本)に参加しています。